

いつも熊本日日新聞をご愛読いただきありがとうございます

日に日に秋の深まりを感じるようになりました。近くにあるイチョウの葉も色づき始め、緑色から黄色へのグラデーションが綺麗ですね。天気の良い日は、秋を感じに外へ出かけてみてはいかがでしょうか？



編集・発行

熊日多良木販売センター

球磨郡多良木町大字多良木 356-1

TEL 42-3355 FAX 49-1726

http://www.taragi.com/

熊日湯前販売センター

球磨郡湯前町中里 1830 TEL 43-2151

代小出堅太郎 石田敏郎 那須信一

編集：岩水由香

球磨んタイムズは当社ホームページでもご覧頂けます。また facebook ではコーナーごとに掲載中。「熊日多良木販売センター」を検索して下さい。



男子スタート



あさぎり中学校



多良木中学校



湯前中学校

球磨人吉中体連駅伝大会

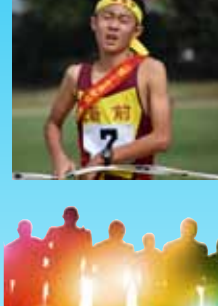
球磨人吉中体連駅伝大会が、10月16日に開催されました。沿道には、家族や市町村の教育関係者も応援に駆けつけ、声援をおくられていました。レースの結果は、優勝が男女共に人吉二中。男子準優勝があさぎり中。女子準優勝が山江中でした。上位2位チームが県大会への切符を手に入れました。みなさんお疲れさまでした。



多良木中学校



水上中学校



女子スタート



湯前中学校



水上中学校



あさぎり中学校

秋の山野草とコケ玉展示会

今年で4回目となる「秋の山野草とコケ玉展示会」が13、14日の2日間、多良木町の国指定重要文化財「太田家住宅」で開催されました。地元の愛好家20人でつくる「草びより草友会（竹下保正会長）」が主催し、会員が持ち寄った山野草やコケ玉、コケ盆景などの約150作品が、来場者たちの目を楽しませました。また、会場近くにある会員宅では、赤飯や豚汁などの振る舞いがあったり、永年山野草を手掛けてこられた中田道弘さん（鹿児島県）を講師に招き、コケ玉作りの体験会や、作品の販売会なども行われ、多くの来場者で賑わいました。竹下会長は「他からの借り物は一切なく、自分たちで出来ることをやろうと取り組んできましたが、今年は特に会員が（作品作りなどに）熱心な年でした。若い方も入会し、取り組む姿勢が前向きで良かったと思います。お客様にも沢山来て頂いて、お客様自身も満足のいく展示会になったのではないのでしょうか」と、目を細めておられました。なお、最高賞である金賞は、山苔、ヒノキ苔、ハイ苔と3種類の苔を使用し、稲やキビなどの刈取り時期を迎えた田園風景を表現し、作品を仕上げた星原充子さんが見事受賞されました。その他上位各賞は以下の通りとなります。



銀賞：味岡三和さん
銅賞：松本康子さん
会長賞：松本美智子さん
特別賞：星原充子さん



作品の説明をする竹下会長
(左から2人目)



金賞を受賞した
星原充子さん

球磨ん文化財巡り NO.42

伊勢皇大神宮

(あさぎり町岡原北伊勢本)

天和二年(1682)に東林寺(人吉市)の天端和尚が勢松庵のために伊勢神宮と勧請し護神塚の碑を建て当地の繁栄を祈願して建てた神社です。



弁天堂



護神塚

貞享二年(1685)再興等の事績があり、延宝八年(1680)人吉の東林寺の開山に続いて、精力的に郡内の社寺の開基、再興にあたったことがわかります。この頃の伊勢本は赤川(あかごう)村と言って、かつて久米氏の本拠であった久米郷奥野村の圏内にあり、現在の古多良木地区も赤川村に含まれていました。



次のページへどうぞ

郡市中体連秋季陸上大会



湯前中応援



永上中応援

選手・応援の皆さん、お疲れさまでした！

熊本県特別支援学校 技能検定（清掃）に向けての取組



高等部では、熊本県特別支援学校技能検定（清掃）に向けて、休み時間や掃除の時間を使って検定種目の練習に取り組みました。検定種目は、①テーブル拭き、②自在ぼうき、③水拭きモップ、④ダスタークロスの4種目で、本校からは23人の生徒が受検を希望しました。この技能検定

は、特別支援学校に在籍する高等部生徒の進路や生活を見据えた取組として、2年前から実施されており、年々、受検希望者も増えていきます。掃除の意味をしっかりと理解できると共に、受検という日頃なかなか経験できない緊張感を味わうことができる良い機会です。取組をととして培った力を家庭生活や卒業後の生活につなげることができることを期待しています。

（原稿・写真提供：球磨支援学校）

テレビ画面。青蓮寺、城泉寺、明導寺などの写真を使ったCMがサラリと流れました。◆アツと思った途端、画面が切り替わったものの、老化の進む脳裏にすっかり焼き付きました。改めて人吉球磨の文化財の豊さを教えられる感じが、◆米メトロポリタン美術館所蔵の四曲一双「源氏物語図屏風」が最先端のデジタル技術を駆使して複製され、青蓮寺で展示と先月の本紙でも報じました。会場を「黒の蔵」に移して28日までの公開されています◆趣は異なるものの、くま川鉄道おかげで幸福駅のホームなど4カ所に南校高校生ハート形のオブジェを飾ったニュースも熊日紙上に◆外歩きには最適な季節になりました。猛暑で出そびれていた分を取り返そうです。歩いてなら文句なしでしょうが、体力や時間とも相談、車で手軽に、でもいかが？。（X）

暖談なあ

◆寝転んでぼんやり眺めていた

新聞記事を楽しむ！

NO.43

～「ものの見方・考え方」理念～

先日、一階の渡り廊下にあった青い鳥「ルリビタキ」の身体を撫でながら、「どうした。何かあった」と尋ねると、大きくくちばしを開け「チッチ」と答え、驚きとともに素敵な会話の出会いがあった。数日後、数名の大学生に「不安に思うことは」と尋ねてみた。すると、「時流への対応」と「親」との答えが返ってきた。「時流への対応」は確かにAI技術による4次産業の急激な変化や将来の不透明さなど理解できる。しかし、「親」には驚きと衝撃を受け、「なぜ親ですか」と聞き返せなかった。「親」が気にかかり、三日間の連休はフロレンス・ナイチンゲール著の【看護覚え書】を読むことにした。8日の朝、読み終え、「何かに対して《使命》を感じるとはどのようなことか。それは何が《正しく》何が最善であるかという、あなた自身が持っている高い理念を達成させるために自分の仕事をするのであり、もしその仕事をしないでしたら『指摘される』からするのではない。これが《熱意》というものであり、自分の《使命》を全うするには誰でも持たなければならない。看護師は、人間を対象に仕事をする。自分自身の理念の満足を求めて病人の世話をするのでない限り、ほかのどんな『指示命令』によっても熱意を持って看護することはできないであろう。」という文面が心に残った。根本は理念、「ものの見方・考え方」なんだとうなずき納得した。ほっと一息。【看護覚え書】を机の上に置き、新聞を手にとって開いた。すると、ノーベル平和賞ムクウグ氏に聞く、「性暴力の背景に資源争奪」の記事、『1歳半の女児がレイプされ、手術を重ね、命は助かった。とても悲しかった。治療に携わったスタッフの多くが心的外傷（トラウマ）を抱いた』と述べ、性暴力の解決に向けた取り組みを国際社会に求めた。」との内容に驚いた。解決は理念によるものではないのか。大学生の言う「親」は、親の教えに不安を感じたのではないのかとったりした。

（原稿提供：多良木高等学校 川北禎一先生）

多良木警察署だより

みんなでもる いかのおすし

知らない人にはついていかない

知らない人の車にはのらない

あぶないときは大こえでさけぶ

あんぜんなところへすぐにげる

し家の人や学校になにがあったかしらせる

登下校は複数でしよう！

（原稿提供：多良木警察署）